

# 18世紀ブリストルにおける低額の 検認遺産目録

——商人，マリナー，未亡人，ヨーマンのケーススタディ——

岡 部 芳 彦

## 要 約

本稿では、これまであまり目が向きにくかった総額が低い検認遺産目録に注目して、どのようなものが含まれたのかケーススタディを行った。動産のリストであるイギリスの検認遺産目録は、消費財や動産などを示す事例として取り上げられる場合は、所有物が多かった層が中心になり、あまり総額が高くなかったものには目が向かず、特定の社会階層の分析に偏るおそれがある。それを避けるため、本稿では商人，未亡人，マリナー，ヨーマンと4例の低額の遺産目録を選出し実態を分析した。

それらの分析からは債権債務の確認に遺産目録が使用された可能性や当時の女性の生活の実態が垣間見えた。また低額の検認遺産目録をみるかぎりでは、記載された職業と目録における品目の内容があまり一致しないようにも見える。これらからは、幅広い社会階層が含まれたマリナーのように、本人が名乗り、また死後家族や査定人が記した職業名は、それぞれの属した本当の社会階層と一致しなかった場合もあったと考えられる。

## 1 は じ め に

動産のリストであるイギリスの検認遺産目録は、さまざまな研究において消費財や動産などを示す事例として取り上げられる場合が多い。そうなれば、所有物が多かった層が中心になり、あまり総額が高くなかったものには目が向かず、特定の社会階層の分析に偏るおそれがある。一方、クレイグ・マルドルーの近年の研究では、労働者層の検認遺産目録の中の家財、家屋の構造、貸借関係などの情報から農業地帯における労働や物質文化の分析がおこなわれてい

## 18世紀ブリストルにおける低額の検認遺産目録

(1)  
る。そこで本稿では、これまで研究対象としてきた海港都市ブリストルにおける総額が低い検認遺産目録に注目して、どのようなものが含まれたのかケーススタディを行う。結果として低額の遺産目録を残した層の実態を分析したい。

低額の検認遺産目録の選出であるがブリストルの検認遺産目録の手稿が含まれる教会文書群 Ecclesiastical Cause Papers (以下 ECP) から行う。この史料はブリストル公文書館 (Bristol Record Office : 以下 BRO) に所蔵されており、著者のこれまでの研究でたびたび使用してきた。検認行為は1857年までの検認に関する法令に基づいて、それぞれの教区の司祭によって統制されていた教会裁判所で行われた。(2) ブリストルの遺産目録の中で、居住地の外に不動産や財産を所有していた場合や教区外にたびたび出るなど様々な複雑な事情を持つものが、上級の教会法廷 Ecclesiastical Court の手続きを要求された事例があり、それらが ECP の中に残されている。(3) そのため、付属文書なども残され保存状態がよいものが多い。

次に選出基準であるが、今回は債務者のリストを除いた総額が10ポンド以下の一桁のものを分析対象にしたい。その基準に合うものは4例ある。まず1694年の John Wright (商人 merchant, £9 2s) である。次に1748年の Margaret Neady (未亡人 widow, £1 16s) である。3例目は1751年の Close Windburn (マリナー mariner, £6) である。最後に1771年の Thomas Sherman (ヨーマン Yeoman, £9 8s) である。この4例は17世紀末から18世紀後半にかけて分布しており、また商工業者から農業従事者まで幅広く、また未亡人も含まれることから男女両方の遺産目録が入っている。さまざまな社会階層の分析には理想的なサン

---

(1) Muldrew, C. (2011) *Food, Energy and the Creation of Industriousness, Work and Material Culture in Agrarian England, 1550-1780*, Cambridge University Press, pp. 65-83.

(2) 岡部芳彦「イギリス検認遺産目録の法的背景と査定方法」『大阪大学経済学』第59巻, 第3号, 2009年, 349頁。

(3) George, E. and S. (1988) *Guide to the Probate Inventories of the Bristol Deanery of the Diocese of Bristol (1542-1804)*, Bristol Record Society, xv.

ブルである。この4例を手稿から活字化し、それぞれの遺産目録のケーススタディを通じて、その詳細を分析したい。

なお手稿からの活字化に際しては綴り違い、改行、注記などできるかぎり原史料に近い形で記載した<sup>(4)</sup>。また日本では、刊行された遺産目録集を用いた研究も見られる<sup>(5)</sup>。そこで国内外での史料としての今後の活用も考慮して原語のままとし、ラテン語や短縮語などには可能なかぎり注釈をつけた。

## 2 低額の検認遺産目録のケーススタディ

- (1) John Wright（職業：merchant，ブリストル市街教区，1694年）の検認遺産目録<sup>(6)</sup>

この遺産目録は、John Robington と John Peters の2名によって査定された。遺言や検認に関わる1529年制定の3つの法令によって2名以上の査定人 appraiser を任命することになり<sup>(7)</sup>、その規定に則った形式である。

史料としてこの事例は興味深い。現在 BRO に所蔵される1695年以前の ECP の原本は特別な許可がない限り閲覧が許されていない。17世紀以前を研究する

---

(4) 活字化に際しては、現在では死語となった品目名などもあるため、以下の検認遺産目録用語集を参考にした。Rosemary, M. (1993) *A Glossary of Household, Farming and Trade Terms from Probate inventories*, Third edition, Derbyshire Record Society Occasional Paper No. 1. Moore, J., 'Glossary' in Moore, J. (1976) *Goods and Chattels of Our Forefathers*, : *Frampton Cotterell and District Probate Inventories 1539-1804*, Philimore & Co. Ltd, pp. 288-340. ラテン語に関しては Glare, P., ed. (2012) *Oxford Latin Dictionary: Second Edition*, Oxford University Press.

(5) 和田将幸「ミドリング・ソートと消費—17世紀ブリストルの遺産検認目録から—」(『経済学論究』, 第64巻第2号, 2010年)。なお、ブリストルの商工業者に関しては柳峻夫の一連の研究がある。Hitotsuyanagi T. (2008) 'Leading European Traders in Late Eighteenth-Century Bristol', *Journal of Teikyo Heisei University*, Vol. 19 など。

(6) EP/J/2/1/1695, BRO.

(7) Cox, J. and N (1984) 'Probate Inventories: the Legal Background Part 1', *The Local Historian*, volume 16, number 1, p. 135.

## 18世紀ブリストルにおける低額の検認遺産目録

際にはマイクロフィルムで保存されているブリストル執事管区のものを読覧するしかないが、この1694年の John Wright の検認遺産目録は1695年の ECP の束の中から見つかった。

衣類や現金をはじめ、22項目が、部屋別ではなく順番に査定され、総額は £9 2s である。ベッドやベッドの枠組み *bedstead* などの寝具にはじまり、テーブル、椅子などを中心に日用品が査定されている。ベッドには、ベッドの上部や天蓋に取り付けるカーテンであった *vallion* (*valance* の綴り違い) が掛けられていた。<sup>(8)</sup>

部屋別の査定ではないので家屋のどの部分にそれぞれの品目があったか分からないが内容から推測できる部分もある。13項目目には、オーブンで調理する際の料理の取り出しに使用したへら状のしゃもじである *Slice*、薪のせ台 *Andron*、トングが記載されており、キッチンでも使用された可能性がある。その後にはピューター製の食器やその他の皿類も記載されている。高額の遺産目録でよく見られる装飾品などは見られないが、カップ用棚 *cup board* が記載されており、居間やキッチンが整理整頓されていた様子がうかがえる。

この遺産目録には会計報告書 *account* が付けられている。会計報告書の作成やそのプロセスについては不明な点が多いため、その解釈についての先行研究は多くはない。<sup>(9)</sup>ただ、その内容からは当時の日常生活やさまざまなサービスの価格が分かることが多く、本稿ではその点にしばらく見てみたい。

免責・免除 *the discharge* の最初の項目には、病気の介助に週 5 シリングが 28 週分支払われた事が記載されている。ここからは John Wright は 7 か月に及ぶ闘病の末に死去したことが分かる。Wright が長期間にわたり、マリナーの William Biggers から 6 ポンドを借りていた。遺産目録には、死亡者の債権について書かれていることはあるが、死亡者本人の借金について記載されている

---

(8) Moore, *Goods and Chattels of Our Forefathers*, p. 335.

(9) Erickson, A, 'Using Probate Accounts', in Arkel, T., Evans, N., Goose, N., eds, *When Death Do Us Part*, Leopard's Head Press Limited, p. 110.

事例は少ない。同様に後半のほうでヨーマンの Richard への債務 5 ポンドについても記載がある。葬儀や埋葬に関する費用も除外項目にあげられているほか、並列的に記載されているのが帽子や手袋が含まれる。これらも葬儀用であったと考えられる。事務弁護士 proctor への支払いや遺産目録の部分的な作成にかかった費用も計上されている。

(2) Margaret Neady（職業：widow，ブリストル市街教区，1748年）の検認遺産目録<sup>(10)</sup>

この遺産目録は、ブリストルの商人 John Augier によって査定された。未亡人の検認記録については Mary Hodges の研究がある。<sup>(11)</sup> 検認記録を残した未亡人は貸金業を営んだり、家屋の所有率が高く比較的裕福だったと指摘されている。Neady の事例では、遺産目録についてはマットやベッドなどの寝具を中心に非常にシンプルなものである。一方で、チェストには Fashioned とその用途も書かれており、額装されていない絵画も記載されている。お洒落を楽しみ、絵画に囲まれた日常が垣間見られる。

遺産目録の短さにくらべて、詳細な会計報告書が付いている。この会計報告書は John Augier によって作成されているが、Margaret Neady との関係ははっきりとはしないが、死去するまでの間、近くにいた人物であろう。死亡者の投宿を示す Deceased's Lodging という記載があり、5 週間分の対価として £1 5s が計上されている。

この会計報告書で最も特徴的なのは最後の但し書きである。ジャマイカからの品々やブリストルの Bedminster 教区にある複数の家から得られた金銭が醸造業者 Brewer の Norman によって保有されている旨が記載されている。これ

---

(10) EP/J/2/1/1748, BRO.

(11) Hodges, M 'Widows of the 'Middling Sort' and their Assets in Two Seventeenth Century Towns', in Arkel, T., Evans, N., Goose, N., eds, *When Death Do Us Part*, pp. 306-324.

## 18世紀プリストルにおける低額の検認遺産目録

らについては会計報告書の作成者 John Angier も書いているとおり詳細は不明であるが、未亡人が海外ともつながりがあったことや、ある程度の財産や家屋を持っていたことを示唆しており興味深い。

### (3) Close Windburn (職業：mariner, プリストル市街教区, 1751年) の検認遺産目録<sup>(12)</sup>

この遺産目録は、主要債権者である Thomas Putham によって査定されている。非常に短いですが、検認遺産目録が相続のほか、債権者への返済の原本となったことを示す貴重な事例である。

Windburn の職業はマリナーである。マリナーの遺産目録には水夫から富裕な貿易商まで非常に幅広い社会階層が含まれている。プリストルの検認遺産目録には、18世紀以降、研究者の間で wage due inventories と呼ばれるマリナーの検認遺産目録が急増し、その数は1,486例である。この遺産目録は、戦闘による海上任務において死亡した者について、戦死者への扶養手当支給のための資料として、最後の航海の賃金、艦艇名、指揮官や艦長名が、艦長や士官によって記載された。<sup>(15)</sup> この Windburn の遺産目録も、一見よく似た形式であるが、内容は全く異なっている。例えば、1710年に検認・公開されたマリナーであった Phillips Richard の遺産目録には彼が従軍していた事と海軍からの報奨金 £10 が彼の母親に支払われる旨が記載されている。<sup>(16)</sup> それに対して、Windburn の遺

---

(12) EP/J/2/1/1751, BRO.

(13) Okabe, Y. (2012) 'Mariners in Bristol in the seventeenth and eighteen centuries- An analysis based on probate inventories-', Discussion Papers in Economics And Business, Osaka University.

(14) wage due の語が含まれるためこのように呼ばれる。Barry, J. 'Introduction' in George, E. and S. (2008) *Bristol Probate Inventories Part III: 1690-1804*, Bristol Record Society's Publication Vol. 60, George, ix.

(15) E. and S. George *Guide to the Probate Inventories of the Bristol Deanery of the Diocese of Bristol*, xii.

(16) George, E. and S. with the assistance of Fleming, P (2008) *Bristol Probate*

産目録にはまず乗り組む船舶名 Queen Anne とその給与の額 £6 が記載されている。その額の横には債権者である Thomas Putham の名が附されている。これは £6 がそのまま債権者へ支払われることを示唆している。

さらに Windburn の遺産目録は両面一枚の紙で構成されているが、裏面には申立書が付いている。検認遺産目録を活字化する際にもっとも難しいのは、現在と違う形で短縮形が用いられることである。ここでは Edward Hipsly の後ろの Plt は Plaintiff, つまり原告・申立人を表している。そして James Brown は Deft すなわち Defendant, 被告である。原告 Hipsly が宣誓したのは以下の通りである。被告 Brown には供述者、おそらく Close Widerburn が売った品目に対するイギリス法定貨幣 8 ポンドが負債として残っていた。また、Bill Drawn と Joseph White に対してイギリス法定貨幣 5 ポンドの借金もあったことが分かる。これらの内容から検認遺産目録は死亡者の債務の確認にも使用されていたことがわかる。

(4) Thomas Sherman (職業: yeoman, Stapleton 教区, 1771年) の検認遺産目録<sup>(17)</sup>

この遺産目録は、本人の妻で遺言執行者である Sarah Sherman によって査定され、総額は £3 15s 10d である。Stapleton 教区は、ブリストル市街教区と隣接する郊外教区であった。<sup>(18)</sup>

現金も含めて16項目が、部屋別ではなく順番に査定されており、その中心は身の回りの品である。キッチンや食卓で使用された品が多く見受けられるが、食器などもピューター pewter や陶器 Earthen ware といった日常品がすべてで

---

*Inventories Part III: 1690-1804*, Bristol Record Society's Publication Vol. 60, p. 70.

(17) EP/J/2/1/1771, BRO.

(18) 岡部芳彦「ブリストルにおける商工業の地域展開—ブリストル執事管区の検認遺産目録を用いて—」神戸学院大学経済学論集, 第41巻, 第1・2・3・4号, 2010年, 47頁。

## 18世紀ブリストルにおける低額の検認遺産目録

あり、装飾品はまったく記載されていない。ここからは18世紀後半のヨーマンの慎ましやかな日常生活が垣間見える。

品目の記載が終わり、会計報告書との間にコテージの記載がある。Shermanは、リースによって3軒の小さなコテージもしくは家屋を所有していた。Lease a for The Lives の記載があるので Thomas Sherman と遺産目録公開者 exhibitant との世代借地、つまり世代間で引き継がれたことも分かる。

この遺産目録にも会計報告書が付されており、葬儀や親族への支払いといった一般的に見られるものである。最後の Sarah Sherman の署名は2本線が引かれているだけなので、非識字者であったと思われる。

またこの事例から分かることで付け加えておきたいのが、この遺産目録には4か所の誤記と訂正が見られることである。マリナーの Close Windburn の事例にも1か所の誤記と訂正があった。検認遺産目録が実際にどのような素材の紙に書かれ、どのように具体的に作成されたかといったフォーマットについての解説はあまりない。この点は遺産目録の正確性を議論する上では非常に重要であると思われる。しかし、どの程度まで綺麗に書かなければならなかったのか、短縮形に法則があったのか、またどの程度まで誤記が許されたのかは、活字化された遺産目録集では削除される場合も多く、実際に原本を見なければどのように作成されていたか知ることはできない。本稿の4例では、この Sherman と Close Windburn の事例に誤記があり、一重取り消し線で訂正されていた。Sherman の誤記は4か所あり、その内2つは前置詞である。簡単な文法上の誤記は検認をうける文書として問題はなかったようである。

## 3 む す び

本稿では、これまであまり目が向きにくかった総額が低い検認遺産目録に注目して、どのようなものが含まれたのかケーススタディを行った。最後にもう一度論点を整理しむすびとしたい。

動産のリストであるイギリスの検認遺産目録は、消費財や動産などを示す事



例として取り上げられる場合、所有物が多かった層が中心になり、あまり総額が高くなかったものには目が向かず、特定の社会階層の分析に偏るおそれがある。それを避けるため、本稿では4例の低額の遺産目録を選出し実態を分析した。

今回の4例の共通点として、低額の遺産目録の多くが、部屋別ではなく、そのまま並べて査定されていることが挙げられる。また3例は会計報告書が遺産目録の最後に付され、John Wrightの例のように法にしたがい2名の査定人が任命されている。総額は低いが規則どおりに作成されたことが分かる。

マリナーであった Close Windburn の事例では、債権者によって査定され、裏面には債務に関する申立書も付されていた。検認遺産目録の査定人には債権者が任命されることも多く、この事例もその一つである<sup>(19)</sup>。申立書の内容は検認遺産目録が、死亡者の債務の確認にも使用されたことを示している。Margaret Neady の事例からは、未亡人が海外とのつながりや家屋を所有していたことが分かる。検認遺産目録には、女性が単独で記録されることが少ないので、未亡人の検認遺産目録のケーススタディは当時の女性の生活実態を分析する上で有効と思われる。

今回の4例では、ベッドやテーブルといった必要不可欠な生活用具が中心で、総額の大きい遺産目録に多くみられる装飾品や鏡といった日常生活を豊かにする品目はあまり登場しなかった。遺産目録が低額であるので収入も高くなかったと考えれば当然の帰結である。ただ、この4例は商人、マリナー、未亡人、ヨーマンといった商工業・農業だけではなく、男女の両方を含み特定の職業や階層に偏っていない。そう考えれば、L・ウェザリルなどによる特定品目の出現率や所有傾向を中心とした研究で言われてきたような、特定の職業や中間層などの階層が装飾品や植民地産品を中心とした新奇な商品を所有したとはかならずしも言えない可能性がある。

---

(19) Cox, J. and N 'Probate Inventories: the Legal Background Part 1', p. 134.

## 18世紀ブリストルにおける低額の検認遺産目録

一方で、商人であった John Wright のベッドには天蓋にカーテンが掛けられ、未亡人の Margaret Nead はお洒落を楽しみ、絵画に囲まれた日常も垣間見られる。質素で慎ましやかな日常の中にも消費生活を楽しもうとする意志や余裕が感じられる。このように低額の検認遺産目録をみるかぎりでは、記載された職業と目録における品目の内容があまり一致しないようにも見える。これらからは、幅広い社会階層が含まれたマリナーのように、本人が名乗り、また死後に家族や査定人が記した職業名は、それぞれの属した本当の社会階層と一致しなかった場合もあったと考えられる。

その解明には、手稿からの活字化を継続して行い、一例ごとに職業、遺産目録の総額、その内容を精査し総合的に判断するのが、社会経済史研究における検認遺産目録の有効な利用方法の一つであると思われる。

# Lower-Value Probate Inventories in Eighteenth-Century Bristol: Four Case Studies

Yoshihiko Okabe

Probate inventories were lists of movable goods; therefore, many research studies tend to use higher value inventories to observe samples of items used in daily life. So it is afraid only to investigate limited social status. This paper avoids this by analysing lower-value probate inventories of goods under ten pounds. The main source materials are probate inventories in the Ecclesiastical Cause Papers at the Bristol Record Office. Whenever certain inventories were required for proceedings in the consistory court, they remained in the bundle of Ecclesiastical Cause Papers annually.

From case studies of four probate inventories including that of a merchant, widow, mariner, and yeoman, one observes that they were all prepared in the correct style under law-related probate, even while they were lower in value.

In the mariner's case, there was proof that a probate inventory was used as confirmation of debt. In the widow's case, there was some description of overseas matters and of properties.

In these four examples, consumer goods such as a looking glass and decorations were not recorded. These inventories were of a lower value, so it is just as expected. However, these examples are not biased because they include not only some kind of social status but also both sexes. Therefore, some researchers have said that in the case of specific social status, there were novelties, but not all of them had such products.

On the other hand, John Wright used 'vallions', which means a valance for a bed, while Margaret Nead enjoyed fashion and owned pictures. Their lives were simple, but such instances shows us they were determined to enjoy a consumerist lifestyle. This is paradoxical, as some cases of written occupation in probate inventories were not consistent with their real social status.

18世紀ブリストルにおける低額の検認遺産目録

(1) John Wright (職業：merchant, 教区：City of Bristol, 1694年) の検認遺産目録

A true and perfect Inventory of all and singular  
the goods and Chattls<sup>o</sup> rights debts and Credits of  
John Wright late of the City of Bristol<sup>o</sup> Mercht<sup>o</sup> decd<sup>o</sup>  
taken and appraised this 6<sup>th</sup> day of December 1694  
by John Adlington and John Peters as foll<sup>o</sup>

	li	s	d
Imps The deceaseds wearing apparrell	00	10	00
It In ready money in the house	00	00	00
It One bed and bedsteed with Curtains & vallions and rug	}	01	15 00
It Six old chaires and an old Couch att		00	12 00
It three table clothes, three dozen of Napkins and four Towells att	}	00	05 00
It One sideboard cloth and bagg		00	01 00
It Three old paire of Sheetes and i pair of Cotton blankets		00	06 00
It One old Trunk and one old chest		00	06 00
It One pair of dogs with brass heads		00	02 00
It One paire of old window Curtaines		00	01 00
It Two stooles and two old chaires		00	02 00
It One little folding table		00	01 6
It One paire of brass slice and tongs		00	03 00
It One paire of brass Andirons		00	10 0
It Two pictures		00	01 0
It One Scriptor		00	06 0
It One Settle & Cup board		00	05 0
It One Little e brass fish plate		00	05 0
It One little brass pan & copper pan		00	05 0
It One old Crock		00	04 0
It three old chairs & one table		00	04 0
It One Old gowne fitted for the decd as a serjeant &		01	- -
It For one Mace		01	17 6
		<u>09</u>	<u>02 0</u>

Turne over/

Ex 4 to Maij in Cur

A true just and pfect account of all and singuler  
the goods Chattles and Credits of John Wright within=  
named, which since his death have come to the hands  
possession<sup>®</sup> or knowledge of Judith Gittoes of the Citty  
of Bristoll widow executrix of the last will & testamt  
of the within named John Wright and is as  
followeth (vizt )

The charge

Impr <sup>®</sup> This Accomptant chargeth herselfe with the sume of nine pounds and twoe shillings being the sume totall of the Inventory within written	}	li	S	d
		09	02	0
The discharge . /				
Imp <sup>s</sup> For psons <sup>®</sup> to attend the decd 28 weeks in his sickness att 5 <sup>s</sup> p <sup>®</sup> weeke	}	li	s	d
		07	00	00
It <sup>®</sup> paid for four Bushells & halfe of Mault att <sup>4</sup> & six pence p Bushell	}	01	00	3
It paid the Collier for four dozen of Cole att 5 <sup>s</sup> & 6 <sup>d</sup> p dozen	}	01	02	0
It more paid for two dozen of Candles		00	12	0
It more paid for three Couple of Chicken		00	03	0
It more paid for Ale att times		00	05	0
It paid for sev <sup>®</sup> all small things att Sundry times		01	10	0
It more paid to a Keeper for two weekes		00	08	0
It To William Biggers Marriner being moneys borrowed by Mr Wright in his life time	}	06	00	0
It For his Shrowde & Coffin		01	12	0
It For breakeing the ground in the Church, burials & other charges thereabouts	}	03	03	9
It For wine		00	10	0
It For Gloves & hat bands		02	10	0
It For torches		00	06	0
It For a proctors Fee & proxy		00	04	4
It For draweing one part of the Inventory and stateing this account	}	-	05	6
It For the allowance of it & act		-	01	4

18世紀ブリストルにおける低額の検認遺産目録

It paid to Mr Richard Yeamans for a debt due to him by bill under the hand & seale of the sd <sup>d</sup> John Wright	}	05 00 0
		31 13 2
		li S d
paid for proveing the deceaseds will		00 12 0
Due to Joane Merrett in London by bond under hand & seale of the deceased	}	2 00 0
Due on the other side		31 13 2
Sum total of Disbusem <sup>ts</sup> &c	}	34 05 2

It The said Accountant doth declare that there is halfe a yeares rent due to the said deceased by his tenant in the Country, but what the exact sume is shee knoweth not, but declares that as soone as the same comes to her hand, shee wil be ready to charge herselfe therewith . /

*Judith IG Gittoes*  
her mke<sup>®</sup> / .

出典：EP/J/2/1/1695, BRO.

(2) Neady Margaret (職業：widow, 教区：City of Bristoll, 1748年) の検認遺産目録

A Full true and Perfect Inventory of all and Singular the Goods Chattles Rights and Creditts of Margarett Neady lat<sup>o</sup> of the City of Bristoll Widow deced which Since her death have Come to the hands Custody possession or knowledge of John Angier of the said City of Bristoll Merchant Executor named in the last Will & Testament of the said Margarett Neady as followeth (to witt)

One Old Bedstead & Matt	0 4 0
One Bed and Bolster and old Quilt sowed up in a Blankett	1 0 0

The Deceased's Picture without a frame	0	4	0
One old Fashioned Chest of Drawers	0	8	0
The Sum Total of her Jwe	1	16	0

The Full and True Account of the abovenamed  
John Angier as well of his Receipts as of his Paym<sup>ts</sup>  
Disbursmts and other necessary Expences which he  
hath made Disbursed and been at as followeth

The Charge

This Accountant Chargeth himself with the Severall  
Articles Sett forth in the foregoing Inventory amounting  
to the Sum of

The Discharge

This Accountant Craveth an Allowance for the Deceased's  
Lodging and Boarding with him for the Space of Five  
Weeks at the Rate of Five Shillings p Week amounting  
to the Sum of

He also Craveth an Allowance for the Sum of Two pounds  
Eight shillings and Six pence being for Goods and  
Necessaries by this Accountant sold and delivered to  
the Deceased in her Life time

He also Craveth an Allowance for the Funeral Expences  
of the Deceased Amounting to

Also for severall sums by him lent the deced in her lifetime  
on Notes & otherwise amounting to

He also Craveth an Allowance for the Charges he paid for  
proving the Deceaseds Will as also for the Charges he hath  
been and shall be at in Exhibiting this his Inventory  
and Account

Also This Accountant sayth he hath heard there are Monies in the  
Hands of Onesiphonie

Norman of Bristol Brewer belonging to the Estate of the Deceased  
on Account of Goods consign him from Jamaica And also on  
Account of Rents he received from some Houses in Bedminster  
But how much he cannot set forth But sayth when he hath  
received the same he will be ready to Account for the same

John Angier

出典：EP/J/2/1/1748, BRO.

(3) Close Winburn (職業：mariner, 教区：City and Diocese of Bristol, 1751年) の検認遺産目録

A true and perfect inventory of all and singular the goods and Chattels of Close Winburn late of the City and Diocese of Bristol mariner deced exhibited this 23<sup>d</sup> day of December 1751 by Thomas Putham late of the City and Principal Creditor of the said deceased

To moneys due to the deat for	}	£	s	d	
His service on board the Queen Ann		6	0	0	Thomas Putham
Snow about					

In the King's Bench

Between Edward Hipsly Plt<sup>o</sup>  
and  
James Brown Deft<sup>o</sup>

The Plt maketh Oath that the Deft is really and justly indebted to this Dept in the sum of Eight Pounds of lawful British Money for Goods by this Dep<sup>t</sup> sold the Deft and Delivered to him or his Order and that the Deft is further indebted to him this Dep<sup>t</sup> in the Sum of Five Pounds of Lawful British money by Bill Drawn by Joseph White on the Deft for Value received payable to this Dep<sup>t</sup> ~

Sworn at Bristol 4<sup>th</sup> day of July  
1737 before me

出典：EP/J/2/1/1751, BRO.

(4) Thomas Sherman (職業：yeoman, 教区：Stapleton, 1771年) の検認遺産目録



A true perfect inventory of all singular  
the Goods Chattels & Credits of Thomas Sherman  
late of the parish of Stapleton in the County of  
Gloucester & Diocese of Bristol Yeoman  
deceased which since his Death have come to the  
hand possession or Knowledge of Sarah Sherman  
his widow & Relict & sole Executrix to the best of  
her Remembrance Belief & by her by her Exhibited into  
the Episcopal Court of Bristol the 6 day of July  
1771 as follows Viz'

Money in the House at the time of the decessds death about	1	0	0
Household Goods			
One Bed, Bedstead & furniture	1	10	0
One case of Drawer	0	6	0
Two old chair	0	4	0
One Chest	0	4	0
One pair of Bellow	0	1	6
Two Pewter Dishes	0	2	6
Four pewter plates	0	2	0
Four Earthen plates	0	0	4
Four Trenchers	0	0	6
One Warming pan	0	1	6
One table	0	0	6
Two Stools	0	1	0
One Sauce Pan	0	1	6
One pair of Tongs	0	0	6

Part of which before mentioned goods the Exhibitant gave  
to son Thos Sherman & the other parties was taken for Rent due in the  
deceased life time

Three small cottages or Tenement hels by Lease a for  
The Lives of this Exhibitant & Thomas Sherman  
Now let a the Sum of at the sum of 4 : 10 : 0 p Annum

	1	0	0
--	---	---	---

This Exhibitant craveth an allowance of the several

18世紀ブリistolにおける低額の検認遺産目録

Sum of Money paid laid out & expended by this Exhibitant  
in & about the funeral of the said otherwise e touching his  
Executorship as follow

Paid for funeral Expences	3	0	0
P.d for the late of the tribe	1	16	0

This exhibitant craveth and allowance for of all  
such sum & sum of money as shall pay in & about  
drawing ingrossing in this Inventory & account & other money necessary  
Charge relating thereto or otherwise occasioned by this pretended  
Suit

Sworn before us in  
Open Court the 6 day  
of July 1771

The Mark of  
II  
Sarah Sherman

J. Camplin Sur<sup>①</sup>

出典: EP/J/2/1/1771, BRO.

- 
- ① Chattels
  - ② Bristol
  - ③ Merchant
  - ④ deceased
  - ⑤ follows
  - ⑥ possession
  - ⑦ Imprimis=First
  - ⑧ persons
  - ⑨ per
  - ⑩ Item
  - ⑪ sever
  - ⑫ said
  - ⑬ mark
  - ⑭ late
  - ⑮ Plaintiff
  - ⑯ Defendant
  - ⑰ Surrogate